

信仰とは求めること

おはようございます。今日はミサの中で洗礼式があります。1人の大人の方と6人の子供達です。そのため、今日の説教は簡単にさせていただきます。

人によって、信頼を持って人を良く信じる人がいます。また逆に初めから疑いを持って、物についても人についても余り信じることの出来ない性格の人もいます。皆様はどちらでしょうか？人間関係においてまず疑いから始まるのでしょうか？「だまされてもいいよ」と信じながら始まるのでしょうか。皆様はどちらですか。

人間関係について考えてみると、皆この社会の中で子供の時から今まで、人にだまされた経験も、傷つけられた経験もあります。ですから子供たちに、「条件なしに人は必ず信じなくてはならない」と教えるのは少し難しいことだと思います。実際に人間の関わりの中では、人を疑いながら、また確かめながら、何とか前を見なければならぬのが、私達人間の関わりではないのでしょうか。しかし「神様に対して私達はどうすればいいか」を考えてみましょう。純粹に、言われたとおり神様を信じる人々もいます。しかし何についても確認しなければ、イエス様に対して、またイエス様の教えについても信じる事が出来ないという人もいます。皆様はどちらですか。イエス様を堅く信じていますか？イエス様を信じていますか？

そうです。イエス様のことは私達の心によって、私達の意志によって信じられることではありません。信仰というものは、イエス様が許して下さらなかつたら出来ません。

信仰とは求めることです。自分がつくるものではなく、求めるものです。求めるものとはどういうことでしょうか。神様が、イエス様が許されなかつたら、求められないことになるのです。ですからよく考えてみて「なぜ私は信仰が浅いのか」と思われる方は「イエス様、あなたを強く信じる事が出来るように許して下さい」と祈るべきです。祈りましょう。この祈りが無ければ私達はイエス様が見せようとしたお言葉の意味をそしてイエス様に対する信頼感も得ることが出来ないと思います。

今日の福音の中でトマスが「イエス様の脇腹に直接自分の手を入れ、手の釘の後に自分の指を入れなければ私は信じません」と言ったこと、それは悪いことではありません。たぶんトマスも求める心だったのでしょう。ですから「あなたの信仰を私が強くしよう」とイエス様はわざわざご自分で現れて信じるようにしたのでした。その体験によって、トマスはインドまで行きました。そして素晴らしい殉教をしました。

結局、私達が持っている信仰というものは、神様が作って下さったものにほかならないのです。ただ私達は求める心が何よりも必要ではないかと思えます。

ありがとうございました。